

泌尿器・副腎・腎移植外科に、過去に通院・入院された患者さんへ (臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られる検査結果などの診療情報を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省・経済産業省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」(令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号)の規定により、研究内容の情報を公開し、研究対象となる方等が拒否できる機会を保障することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせ、拒否される場合などがありましたら、以下の連絡先・相談窓口へご照会ください。研究への診療情報の利用を拒否された場合も不利益を受けることはありません。また、この研究については、香川大学医学部倫理委員会の審議にもとづく医学部長の許可を得ています。

[研究課題名] 腫瘍可視化技術を併用した経尿道的膀胱腫瘍切除術の治療アウトカムの評価

[研究責任者所属・名] 香川大学医学部泌尿器科学・杉元幹史

[研究の目的] 膀胱腫瘍の患者様に対しては、まず経尿道的膀胱腫瘍切除術(TURBT: transurethral resection of bladder tumor)が行われます。近年、その手術に腫瘍可視化技術(PDD: photodynamic diagnosis)を用いることで、腫瘍を診断する能力が向上することが明らかとなっています。しかし、2017年12月に本邦ではじめて導入された新技術で、その治療効果までは明らかではありません。本研究は、「PDD併用によって、手術後の再発は減るか?」を明らかにすることです。

[研究の方法]

対象となる患者さん

2009年1月~2021年9月に香川大学医学部附属病院で経尿道的膀胱腫瘍切除術を実施された患者様のうち、筋層非浸潤性膀胱癌であった461名

利用する診療情報

手術時の年齢、性別、尿細胞診(手術前)、上部尿路上皮癌・膀胱癌の既往、膀胱癌の数と最大径、病理診断(組織診・深達度・悪性度・筋肉採取の有無)、Repeat TURの有無、膀胱内注入療法の有無、膀胱癌の再発・進展、PDD併用の有無

[研究組織]

- ・研究責任者所属・役職・名: 香川大学医学部泌尿器科学・教授・杉元幹史
- ・研究分担者所属・役職・名: 香川大学医学部泌尿器科学・学内講師・田岡利宜也

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[連絡先・相談窓口]

香川大学医学部泌尿器科学

担当医師 田岡利宜也(たおかりきや)

住所 香川県木田郡三木町池戸1750-1 電話 087-8912-2202, FAX 087-891-2203